

第5学年 国語科学習指導案

日時 平成15年9月3日(水) 5校時
児童 男15名 女9名 計24名
指導者 皆川 晃宏

- 1 単元名 五 体験したことを分かりやすく伝えよう
教材名 「わたしたちの学校生活」

2 単元について

本単元は、「書くこと」と「話すこと・聞くこと」の複合教材で、4年生に向けての「5年生の活動報告会」をゴールとした学習活動である。まず、5年生になって学校生活で体験したことを振り返り、4年生に伝えたい体験を決め文章化する。次に、スピーチ原稿を作成し、それをもとにスピーチの練習をする。そして、最後に活動報告会を行う。

自分の体験を相手に分かりやすく伝えるためには、自分の体験を見つめ直し、相手や目的に応じて言葉にしていける必要がある。この単元を通して、子供たちは、4年生に分かりやすく伝えるためには、どのようなことに気をつけて文章化すればよいのか、スピーチをするときどんな工夫をすればよいのかを主体的に考えることができるであろう。

3 児童について

「書くこと」について児童は、「依頼の手紙、お礼の手紙」で、相手を想定し、目的や意図に応じて、依頼状と礼状を書く学習をした。言葉の研究レポートでは、言葉について調べ、レポートを書く学習をした。アンケートの結果によると、作文を書くことに苦手意識を持っている児童が多いことが分かった。何を書いているのか思いつかないと書いている児童もあった。これは、書きたい内容をカードを用いてたくさん集める活動や、構成を考える活動など、作文に取り組む前の活動が不十分だったためであると考えられる。また、作文を書く際、つなぎ言葉や段落に気をつけている児童が多いことも分かった。

「話すこと・聞くこと」については、「わたしたちは、こう考える」で、自分たちの学校生活上の問題を解決するために計画的に話し合う学習をした。また、スピーチに慣れさせるために、朝の会で3文スピーチに取り組んできた。アンケート結果によると、話すことに苦手意識を持っている児童が多いことが分かった。理由としては、恥ずかしいからというものが多かった。一方、話を聞くことは、とても好きだということが分かった。また、自分の聞き方は良いと思っている児童が多かった。

4 指導にあたって

指導にあたっては、児童が自信を持って楽しく文章が書けるように指導していきたい。まず、昨年5年生の報告会を聞いた時のことを思い出させ、報告会に向けての意欲付けを図る。伝えたいことを決められない児童には、個別指導を行い全員が自分の考えで伝えたいことを決められるようにしたい。伝えたいことをカードに書くときにも、書けない児童が多いと思われるので、「したこと」「心に残ったこと」「きっかけ」「アドバイス」「これからのこと」など書く観点を与えて児童がたくさん書けるようにしたい。作文を書くときにも、児童がどう書いてよいか迷わないように、構成表をいくつか提示して選択させるようにしたい。そして、どの子も書き終えたときに成就感を持てるようにしていきたい。作文をスピーチ原稿に直す段階では、直す必要性を子供に持たせるようにしたい。そのことで、子供たちは、意欲的にスピーチ原稿を作ると考える。また、どこを直せばよいのか、直す観点を教師から与えられただけではしっかり理解できないと思われるので、モデル文を提示し、直す観点を子供たちに考えさせるようにしたい。

スピーチ練習をする段階では、相互評価や自己評価を取り入れていく。お互いに聞き合い、よいところを認め合ったりアドバイスし合ったりする活動を行う。また、自分の発表を客観的に評価できるように、テープに録音して聞いてみるなどの活動を行う。これらの活動を通して、子供たちの力をさらに伸ばしたい。

5 学習指導目標

◎学校生活で体験したことを分かりやすく書いて、相手に伝える。

◎書いたことをもとに、相手や目的を考えてスピーチする。

6 学習指導計画 (13時間)

次	時間	○ねらい・主な学習活動	◎評価規準【評価方法】		
			国語への 関心・意欲・態度	書く能力<書> 話す・聞く能力<話>	言語についての 知識・理解・技能
一次	1時間	○ 体験を振り返り、だれに、何を、何のために伝えるかを決めることができる。	◎ 進んで体験を振り返り、だれに、何を、何のために伝えるかを意欲的に決めようとしている。 【挙手・発言・ノート】		
二次	5時間	○ 伝えたい体験について材料をそろえ、中心点を決めて原稿にまとめることができる。 ・伝えたいことに必要な事柄をカードに書き出す。(2)	◎ 書き出しの工夫や接続語の使い方、文の組み立てなどを考えながら書こうとしている。 【発言・挙手・作文ノート・ワークシート】 ↓	◎ 体験したことを思い出し、カードに書いている。<書> 【カード】	◎ 文や文章には、いろいろな構成の仕方があることを理解する。 【カード・ワークシート 作文ノート】 ↓
		・文章の組み立てを考え、カードに番号を付けて並べる。(1)		◎ 読み手に良く分かるような組み立てを考え番号を付けている。<書>【ワークシート】	
		・叙述を工夫し、伝えたい体験と思いを文章にまとめる。(2)		◎ 書き出しを工夫したり、接続語を適切に使ったりして文章を書いている。 <書> 【作文ノート】	
三次	5時間	○ 報告会に向けてスピーチ原稿を作成し、練習することができる。 ・スピーチ原稿を作る上で留意することを考え、文章を見直す。(1) 本時	◎ スピーチ原稿をより良いものにするため、進んで見直し意欲的に書こうとしている。 【発言・挙手・作文ノート・ワークシート】 ↓	◎ 自分が一番伝えたいことは何かが分かり、カードをもとに組み立てを見直すことができる。 <書> 【作文ノート・ワークシート】	↓
		・見直した文章をもとに、スピーチ原稿を作る。(2)		◎ 自分が伝えたいことを最初に書くなどの文章構成を見直して書いている。 <書> 【ワークシート】	
		・スピーチ原稿をもとに練習をする。(2)		◎ 聞き手を見ながら話そうとしている。 【自己評価・相互評価】	
四次	2時間	○ 報告会をし、学習を振り返ることができる。 ・活動報告会をする。(1)	◎ 学習の成果を実感し、新たな課題を見いだそうとしている。 【自己評価】 ↓	◎ できるだけ原稿を見ず、聞き手を見ながら分かりやすくスピーチしている。<話> 【録音テープ・自己評価・相互評価】	
		・学習を振り返る。(1)			

7 本時の指導

(1) 目標

- ◎ スピーチ原稿を作るための見直しの観点について理解し、自分の作文を見直すことができる。
(書くこと エ・オ)

(2) 判断基準

	A 十分満足	B 概ね満足	C 努力を要する児童への手だて
書くこと	◎ 自分が一番伝えたいことは何か分かり、詳しくする部分と整理する部分を考えながら、組み立てを見直すことができる。	◎ 自分が一番伝えたいことは何か分かり、カードをもとに組み立てを見直すことができる。	◎ 事前に作ったカードをもとに、一番伝えたいことはどれかを確認する。

(3) 展開

段階	学習活動	教師の働きかけと予想される児童の反応	支援する際の留意点
見通す 5分	1 前時までの学習を想起し、本時の学習課題を確認する。	◎ どちらのスピーチの方が良いと思いたか？ スピーチ原稿に直すためのポイントをさぐり、スピーチ原稿に直そう。	・事前にテープに録音した2つのスピーチを子供に聞かせ、スピーチ原稿に直す必要性を持たせたい。
ふかめる 35分	2 スピーチ原稿に直すためのポイントを話し合う。 3 スピーチ原稿に直すためのポイントにしたがって、書いた文章を見直す。	○ 先生が今から出す原稿を見比べて、スピーチ原稿に直すためのポイントを探しましょう。 ・文末を「です・ます」に直す。 ・一番4年生に伝えたいことをはっきりさせる。 ・一番伝えたいことは初めに書いたほうが相手に伝わる。 ・4年生にとって分かりにくいところを詳しくする。 ・必要のない部分は、整理する。 ○ ポイントにしたがって自分の文章を見直しましょう。 ・自分が4年生に一番伝えたいことは、何かを決める。 ・詳しくする部分を考え、書き足す。 ・整理する部分を考える。	・比較できるようなモデル文を用意し、それをもとに、スピーチ原稿に直すためのポイントを考えさせたい。 ・判断基準にしたがって、机間指導を行う。まず、始めにCの児童に個別指導を行いたい。 <評価> ◎ ポイントにしたがって、自分の作文を見直すことができたか。
まとめる 5分	4 本時のまとめをする。 5 次時の学習の内容を確認する。	○ 自分の文章のどんなところを見直すことができましたか。 ○ 次の時間は、今日見直したことをもとにスピーチ原稿作りを行います。	・判断基準Aの子供に意図的に指名し、見直した部分を紹介してもらい、考えの共有化を図りたい。